

むかわ町花き生産組合におじゃましました

(むかわ町の紹介)

むかわ町は、札幌市から車で70分ほど（札幌から道央自動車道苫小牧東IC經由で、日高高規格幹線道路の鷗川ICを降りる）のところにあります。

むかわ町と言えば、「ししゃも」で有名な町ですが、昨年ノーベル化学賞を受賞した、北海道大学名誉教授の鈴木章氏の出身地でもあります。

そんなむかわ町で花を栽培している「むかわ町花き生産組合（組合員数24戸）」の長谷川組合長に今回話を聞きました。

(むかわ町花き生産組合の歴史)

「むかわ町花き生産組合」は昭和63年3月に水稻の補完作物として、鷗川の大地に食料生産以外の農業の可能性を信じ設立されました。

最初の作付はカスミ草とスターチスだったそうですが、それまで花を栽培したことがない農家が花を栽培したのだから相当の苦労があったとのこと。

試行錯誤を重ね、やっと軌道に乗りかけた平成4年に大水害による壊滅的な被害を経験。

この経験を機に、花産地としての信頼を取り戻すため、個選ではいけないと、共同出荷を取り入れ、現在は、アルストロメリア部会、カーネーション部会、スターチス・リシアンズ（トルコギキョウ）部会の3部会を構成し、安定出荷に向けた取組が行われております。

(むかわ町花き生産組合の取組)

むかわ町は冷涼な気候、長い日照時間、比較的雪が少ない地理的条件と、火山灰系の土質が多いという土壤条件が花栽培には適している地域で、現在の主な作付品種は、アルストロメリア、スターチス、カーネーション、リシアンズ、フリージア、ストック、ユリ、カラー、デルフィニウム、ヒマワリ、ナデシコ等が栽培されております。

その中でも、アルストロメリアは全国でも有数の産地で、全道1の出荷量となっており、「花の周年出荷を行っているのは、むかわ町だけでは」とお話してくれました。

現在は、アルストロメリア、カーネーション、スターチス、フリージアなどを、『夢シリーズむかわ』のブランドで関東・関西方面並びに道内向けに出荷されています。



アルストロメリアの栽培風景



出荷待ちのアルストロメリア

(取材を終えて)

取材の中で、「品質が良く、日持ちする花を作るには、土づくりがすごく大切」とお話してくれました。土づくりにこだわりを持つことで、病気や虫に強い花を育てることが出来る。花づくりは環境資源をいかに生かすかが重要なポイントだそうです。

現在の課題は、夏の高温と冬場に必要となる加温のための燃料が高騰している事で、「毎年変化する気候に対し、試行錯誤しながら直面する問題をどう解決し、品質の良い花を消費者の皆様いかに届けるかに努力は惜しまない」そんな話もありました。

「花を買っていただいている方に良いものを届けたい」という生産者の花づくりへのこだわりと苦労があるからこそ、日々の生活に花があるのだと強く感じました。



花は産地を表示して販売することは少ないと思います。
産地表示あり「むかわの花」の文字があれば今回取材をさせていただいた「むかわ町花き生産組合」の花です。

「夢シリーズむかわ」。生産者に夢と情熱を持って新しい仲間を増やし、花を買っていただいた方にも夢を与える産地づくりを目指すブランド名です。是非「夢シリーズむかわ」の花をお買い求めください。



燃油高騰対策のため今年度より取り入れた、加温用薪ストーブ

（むかわ町の花 番外編）

むかわ町にはなんと、鷓川河川敷に広がるおよそ6haのタンポポ群生地があります。

昭和62年に「たんぽぽ群生地日本一」と紹介されたのを機に、毎年5月末には「たんぽぽフェスティバル」を開催しております。

掲載した写真は、最盛期の様子で、現在は大雨災害等の影響で3分の2程度まで群生密度は薄まりつつあるとの事でしたが、一斉に咲き誇る「たんぽぽ」は見ごたえ十分です。是非一度遊びに行ってみてください。



（平成23年11月取材 胆振総合振興局農務課）